

概要調書

中心市街地における商業の空洞化と鉄道による東西の分断に伴う交通網の切断という問題を、連続立体交差事業と連携した統括的な中心市街地の整備により解決していくにあたり、3つのまちづくりのテーマを設定した。

1. 先進的サステナブル・コミュニティの創造

世界的に環境問題が取り沙汰されている現在、我が国でも持続循環型資源の活用や、社会的責任へ対応したまちづくりが急務とされている。春日部においては大落古利根川を中心とした**自然との共生**、代替交通としての自転車交通網の整備や代替エネルギーの積極的利用によるエミッション・フリーを目指した先進的な**エコ・シティ**の建設を目指す。

2. 人にやさしく愛着の持てるまちづくり

住民へのアンケートより、防犯やバリアフリーといった人にやさしいまちづくりへの要望が多数を占めていることがわかる。これは春日部に限らず、社会的犯罪の増加に伴う犯罪不安の増大および少子高齢化社会へ適応したこれからのまちづくりには必要な条件となる。ここでは**防犯、交通安全、バリアフリー、健康**をキーワードとした人にやさしいまちづくりを目指す。

3. 自立型郊外“核”都市—ドラマティックシティ(劇場都市)への展開

既存のストックを有効活用し、新たな拠点の設置、交通網の整備、業務・商業ビルの集積を誘導することで脱ベッドタウンの自立型郊外都市を目指し、さいたま新都心に次ぐ東武線沿線諸都市の核として機能させる。具体的には**業務、商業、居住、レクリエーション、エンターテインメント**の5つの核の形成と連携を目指す。特にエンターテインメントに関しては、春日部TMOと連携した非日常イベントの拠点と、彫刻などを配置した日常的イベント空間をバランスよく配置することで、**劇場都市**としての賑わいの創出を試みる。

以上3つのテーマを実現するために具体的には**エリア・ゾーニング、中高層ビルの計画的集積、環境インフラの整備、イベント拠点の整備、および統括的交通計画**の5つの**広域戦略**と、**新しい春日部駅と駅前広場、大落古利根川とリバーサイド、旧日光街道の歴史軸**の3つの**新拠点の開発と整備**を提案する。

